

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370700792		
法人名	社会福祉法人愛光園		
事業所名	グループホームもくせいの家(きんもくせい、ぎんもくせい)		
所在地	愛知県知多郡東浦町緒川上荇又池58-1		
自己評価作成日	2021年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osyoCd=2375700792-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年から続いている感染症問題が長期化する中で、外部の方との交流や利用者の外出が困難になっているが、ホームでは利用者が日常的にホームの外に出ることができるように、ホーム周辺への散歩の他にも関連事業所に設置されているゴミ捨て場所まで利用者が出かける機会をつくり、外部の方との挨拶を交わし、利用者が日常生活の中で運動不足にならないような取り組みが行われている。毎日の生活についても、職員間でレクリエーションを増やす取り組みが行われており、家族との交流や外出が困難な状況の中にあっても、利用者が毎日の生活を楽しくでもらう取り組みを継続している。当ホームについては、様々な事情から1ユニットのフロアーが休止状態となっているが、限られた職員体制で利用者一人ひとりに寄り添った支援を継続することができるような取り組みが行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	クレド、事業所の理念として毎日読み合わせし、理解を求めている。またご利用者職員への感謝、権利侵害の予防を日々確認している。	運営法人のクレドには基本理念も掲げられてあり、職員の支援の基本に考えている。職員間で日常的にクレドの内容を唱和する取り組みや研修等を通じて振り返る機会が作り、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	行政包括などとの交流などあるが十分ではない。特に今年はコロナの影響が大きい	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難になっているが、例年は、関連事業所である老健やデイサービス等を通じた交流が行われている。また、地域の方に向けた認知症サポーター養成講座の取り組みも行われている。	感染症問題が長期化していることで、地域の方との交流も長期にわたって中断している状況である。今後の感染症の状況もみながら、段階的に交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度は何もできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は回数は少ない(書面開催が多い)がしっかりとテーマ設定し、活かしている	会議については、感染症の状況もみながら開催の可否を判断しており、今年度は2回開催している。会議を開催した際には、他のグループホームの方も参加しており、定期的な情報交換等の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	包括や保健センターはまずまずだが、役場などは日常的に連携はできていない	広域連合との定期的及び随時の情報交換の他にも東浦町との協力関係も行われており、運営法人全体で町の介護計画に関する部会や介護保険の認定審査会に協力する取り組みが行われている。また、地域包括支援センターとの交流も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月勉強会を開催している	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者が日常的にホームの外に出る機会をつくる等、開放的な雰囲気をつくる取り組みが行われている。また、定期的に身体拘束に関する現状を確認したり、職員研修の機会もつくられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記同様である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	十分にできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ある程度理解を得られていると感じる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情解決などの説明はしているが、普及していないと感じる	家族会や行事を通じた家族との交流が困難になっているが、家族との情報交換の機会をつくり、要望等の把握に取り組んでいる。管理者が役職者でもあり、家族からの要望等には柔軟に対応する体制がつけられている。また、ホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体にコミュニケーション不足と感じている	ホームでは、毎月の職員会議や日常的にも情報交換の機会がつけられている。職員からの意見等を主任職員が把握して管理者に報告しており、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	できる限り対応しているが、向上心を持って継続している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修など積極的に実施しているが不十分		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の会合、他法人との連携などできている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	どうしても家族の主訴が強くなってしまふ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	現実には一番の利用動機なので傾聴している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人ご家族の状況を、環境因子と個人因子の視点で考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	過度に管理することはないかと思うが、リスク回避についてはやや制限をしている可能性がある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で全くに近いほど機能していない		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これもコロナ禍で機能していない	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には、運営法人の関連事業所に利用者の関係の方が利用する等、例年は、交流の機会がつくられている。また、家族との外出も困難になっているが、現状で可能な範囲で支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性に配慮しているが、耳が遠いなどの要因で孤立しがちなご利用者が居る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他法人施設へ入居した場合には必要な協力をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月必ず本人の意向を踏まえて評価している	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握及び職員間での共有が行われている。また、毎月のカンファレンスの時間もつくっており、利用者や家族の意向を検討し、日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	やや履歴の把握が弱い		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	どうしても集団化してしまう		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議にて多くの目線を活用している	介護計画については、3か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、毎月のモニタリングについては、担当職員も参加しながら実施しており、利用者の状態変化等の把握につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	可能な限り省力化しつつ、必要要件は記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	もくせいの家だけでは力が足りないため、老健などの支援を受けて居る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	社会資源の活用には至らない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	先生にも配慮していただいている	ホームでは、複数の医療機関との連携を行い、医療面での定期的及び随時の医療面での支援が行われている。受診については家族が行っているが、状況等に合わせてホームでも対応している。また、関連事業所の看護師との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協働しているがまだ足りない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	勤めて努力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	方針は決まっていますが、説明同意のプロセスが不十分な時がある	利用者の中には、身体状態の重い方もホームでの生活を継続しているが、家族との話し合いを重ねながら、ホームでの看取り支援が困難なことも説明が行われている。関連の老健等への移行支援も行われており、利用者の段階に合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎月行う予定でも訓練ができていない月がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ある程度できているがまだ訓練の余地がある	ホームでは、毎月を基本に避難訓練を実施しており、職員への周知を図る取り組みが行われている。関連事業所との合同訓練も実施しており、事業所間で連携した対応につなげている。また、備蓄品については、関連事業所とも連携して確保している。	防災の取り組みについては、運営法人全体で行われている。近隣の住民が増えていることもあるため、可能な範囲で協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	心理的虐待に認定されることがあった。その後は主动性を図っている	運営法人のクレドには、職員が利用者を尊重した対応を行うことも掲げられており、職員間で理念の振り返りを行いながら、意識向上につなげている。また、職員の接遇にもつながる「強化月間」づくり、職員への注意喚起にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己選択自己決定を尊重しているが選択肢が少ない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望に沿っているが、生活のベースは職員の勤務時間をベースにしているのではないかと自問している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	まずまず尊重できている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の試行を伺いつつ、ではあるが献立に反映するには至らない	食事については、外部の業者も活用しながら提供しているが、ご飯と汁物はホームのキッチンで調理が行われている。調理や片付け等、利用者もできることに参加している。おやつ作りや季節等に合わせた食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養摂取と管理はできている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	やや自立している方の確認がしにくいいため不明		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	できるだけおむつを使わない支援を徹底している	利用者の身体状態等にも合わせながら排泄に関する記録を残しており、職員間で情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、医療面での連携も行い、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	工夫しているが、年齢的に難しい方もおられる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	半分は職員都合でもある	ホームでは、利用者が月曜日から土曜日の間で、週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも随時の声かけや清潔保持の支援が行われている。また、入浴剤を入れたり、季節等にも合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々のペースは尊重できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された分の適切な服用はできている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個別性は不足している。まだ工夫できる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍でできないこともあるが、もともと不足気味である	感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、関連事業所と合わせた広大な敷地を活用しながら、近隣への散歩やゴミ捨てに出かける等、日常的にホームの外に出る機会をつくっている。外出行事については、中断している状況でもある。	日常的な散歩等、利用者の外出の取り組みは可能な範囲で行われているが、外出行事が中断していることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、外周tの機会増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	事務所預かりになっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	意図的に支援していない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ある程度配慮できているが、満足度が分からない	ホーム内は広く、ゆったりとした空間が確保されていることで、外出が困難な状況の中でも利用者が閉塞感を感じないような生活環境がつくられている。また、利用者の作品を掲示したり、懐かしさを感じてもらう道具類を設置する等の工夫も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	不満に思う方がいてもおかしくない		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の意思を尊重できていると思う	フローリングや畳部屋、収納スペースや洗面台の有無等、様々な種類の居室が用意されており、利用者や家族の意向に合わせた居室づくりが行われている。利用者の中には、家具類を持ち込む等、今までの生活の延長になるような配慮も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	設備だけでなく目印、声掛けなども環境と考えている		